

県勢、全国の舞台に挑む



23・24日

マーチング出場 松戸六実高 「普通の県立」 楽器借り努力



8月の県大会で笛々と演奏する松戸六実高

東京都立日本小学校のバンドフェスティバル・東京都立全日本マーチングコンテスト（全日本吹奏楽連盟、朝日新聞社主催）が23、24日、大阪市の大阪城ホールで開催される。東京都代表として出場する県勢は、高校が松戸六実、市立船橋、中学校が松戸新市立南館、松戸市立初名ヶ谷、船橋市立法田、小学校は市立藤井橋、代々のひまわり、本郷南

の松戸六実を抜いた。全国大会は2003年、14年に続き今回だ。例年に出場校数は100校程度だが、今年も吹奏楽部の増加でななつてからマーチングの取り組みが盛んになった。西田さんは、マーチングが「部員全員がひとあがりできる組織であるイベント」と考え、興を入れている。出場人数が限られる状態

楽器レンタルと違って、マーチングは12年生まで練習が必要で、初心者、部員全員を舞台に「集められる」ため、楽器の数は多かった。（中略）普通の高専高校が練習して全国大会に出たいという要望がある。練習は部員の自主性に任されている。練習室を使っている。練習は土、日の午後5時から6時半の間。他の部

活の練習で練習室確保でもなっている。
楽器も少なく楽器の一部は練習室から借りている。衣服のバスケットを楽器と物を置く予定だが、各自で音楽靴を、練習に付ける。指導者たちは「松戸六実高吹奏楽部友の会」を作り、練習場確保で練習室確保に努力しているという。「一度ではなかなか楽器の列の並びでも困難します。みんなの練習靴をいっしょに合わせるのが一番大切ですよ。楽器の2年生も本格的に入社気分を満喫していました。」

朝日新聞
11月20日（水）朝刊に掲載